

# 家畜衛生だより

令和3年7月号

紀北家畜保健衛生所

電話 073-462-0500

紀南家畜保健衛生所

電話 0739-47-0974

紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所 電話 0735-58-1481

## 牛伝染性リンパ腫の浸潤対策

地方病性牛伝染性リンパ腫（EBL）は、EBL ウイルスによってリンパ球が腫瘍化する伝染病です。感染牛の血液・乳汁・吸血昆虫などによって伝播することが知られています。本病には治療法やワクチンがありません。見た目に異常がない場合でも、と畜場で発見され全廃棄になることがあります。

さらに、感染牛は生涯他の牛への感染源になります。ウイルスの感染牛から非感染牛への伝播を防ぐため、以下の5点の対策を再確認しましょう。

- ① 発育ステージに関わらず感染牛と非感染牛は分離飼育（6m以上）する
- ② 注射針や直検手袋は1頭ずつ交換する、除角などの際は器具を消毒し、確実に止血する
- ③ 感染牛から生まれた子牛にはできる限り、非感染牛の初乳または初乳製剤を与えるようにする
- ④ 牛の搾乳等の作業は、非感染牛から先に行う
- ⑤ 牛舎周囲や感染牛群と非感染牛群の各群間にネットを張る、忌避剤を定期的に散布する

## ◎近年における新たな吸血昆虫対策の試み

ここでは、他県で新たに検証され始めている吸血昆虫対策を紹介します。

### ① アブ防除ジャケット

白色の防虫ネット等で作成したジャケットで牛体を覆い、牛自身がアブを追い払えない範囲をカバーします。

(特徴)

- ネット構造により、アブの体表への到達を阻止できる
- ジャケット上にアブが付着しても、口器が皮膚に届かず吸血行為を妨害できる
- 個別に対応でき、牛舎にネットが設置できない、分離飼育できない場合にも有効
- 比較的安価で、自作も可能
- 着用しても牛にストレスや栄養状態に影響がない

(参考)

○アブジャケットの作成方法

[https://www.youtube.com/watch?](https://www.youtube.com/watch?v=gUZ68mMKqDg)

[v=gUZ68mMKqDg](https://www.youtube.com/watch?v=gUZ68mMKqDg)

○青森県の事例紹介

[https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/ao-](https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/ao-kaho/files/27gyohatu_abu-jacket.pdf)

[kaho/files/27gyohatu\\_abu-jacket.pdf](https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/ao-kaho/files/27gyohatu_abu-jacket.pdf)

### ② ハッカ油

ハッカ油をサラダ油で希釈し、スプレーで牛体の四肢・腹部に噴霧します。

(特徴)

- 忌避作用があり、サシバエの飛来数が減少する

○6 時間以上の効果が見込める

○作業の煩雑さが無い

○非常に安価で、安全性が高い（生乳に混入しないよう注意）

○ハッカ油の清涼作用で暑熱対策と併用できる可能性がある  
（参考）

○栃木県の事例紹介

[https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/gizyutu  
/documents/no13.pdf](https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/gizyutu/documents/no13.pdf)

### ③ ゼブラペイント

シマウマの縞模様が、吸血昆虫に対する忌避作用になることを活かした実験です。実験の結果、スプレーで縞模様ペイントすることで吸血昆虫の牛体への付着を阻害し、牛がアブを避ける行動が減少しました。

（参考）

○愛知県の事例紹介

[https://www.pref.aichi.jp/soshiki/  
nososi/zebralikestripingcow.html](https://www.pref.aichi.jp/soshiki/nososi/zebralikestripingcow.html)

以上の吸血昆虫対策は、ここ数年で新たに検証されているもので、すぐに EBL 対策として活用できるとは限りません。しかしながら、今後調査・研究が進み、実用化されるものも出てくるかもしれません。

EBLは、血液検査により牛ごとの感染の有無がわかります。農場の全頭検査で感染牛を把握してから、それぞれの農場で可能な対策にとりかかるようにしましょう。

また、農場内で広げないだけでなく、感染牛は計画的に更新し、牛を導入する際にも感染牛を入れないことも重要です。

気になることや不明な点等ございましたら、  
所轄の家畜保健衛生所にお問い合わせください。